

2021  
**11**  
広報しみず  
ゆう・える

「まちに気づく まちを築く とから清水 ～想いをミライに繋ぐまち～」

# SHIMIZU

焼きいも  
ほくほく！

特集

食事がつなが  
コミュニティの絆

## 地域食堂

ゆう える

令和3年度 清水町文化賞・スポーツ賞受賞者紹介

写真 清水幼稚園と清水高校の焼き芋交流会

「誰もが地域で安心して暮らし続けられるために」

# 共生社会への実現に向け 地域食堂と フードライブ事業に取り組む

他町への先進地視察、ボランティア養成講座や研修会の実施、支援してくれる企業の発掘などを進めながら、今年7月に念願のしみずっこ地域食堂をスタートすることができました。

清水町社会福祉協議会では、現在までつづいたの場やサロン等、誰もが地域で安心して暮らし続けられる「共生社会」の実現に向けて、子育て世代や高齢者を含め、障がいのある方など、様々な人同士のつながりをつくる仕組みづくりを行ってまいりましたが、新たに地域食堂の開設と食品の寄付を募るフードライブ事業にも取り組むことになりました。

ボランティア講座や支援企業の発掘などを経て  
しみずっこ地域食堂を開設



横山美貴子 事務局長 村瀬 悟 会長

【清水町社会福祉協議会】



↑中央のしみずっこ地域食堂の看板は清水小・清水中学校の生徒の手づくり。



→メニューや調理工程についてボランティアと入念な打ち合わせを行っています。

**まずは継続すること  
地域に根付く  
取り組みにしていきたい**

同食堂とともに取り組んでいるフードライブ事業は、食品ロスがなくすSDGs(※)の取り組みと子どもたちの食育にもつながっています。また、地域食堂だけではなく、長引く新型コロナウイルス感染症の影響で生活支援を必要としている人への一時的な食の支援にも活用することができました。

今後も同食堂及びフードライブ事業を継続し、町民の皆さんに喜ばれ、地域に根付く活動にしていきたいと思っています。



教えて！

## 「フードライブ」って？

日本国内では年間612万トンの食品ロスが発生し、そのうち家庭系の食品ロスは全体の46%を占めているといわれています。

「フードライブ」は家庭で使いきれない未利用食品を持ち寄り、フードバンク団体や地域の福祉施設及び団体などに寄贈する活動です。

近年では食品ロスの削減と食品の有効利用の手法として活動が広がってきています。



※エスディーズ Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略。2015年9月の国連サミットで採択され、17の目標と169のターゲットからなり、2030年までに達成することを掲げている。その目標のなかには、すべての人が栄養ある食糧を得ることや資源循環型の社会をつくることなどもあげられている。

【清水町社会福祉協議会】

# しみずっこ 地域食堂



▲【しみずっこ地域食堂】

食事がつなくコミュニティの絆

特集

# 地域食堂

「食事を囲みながら団らんで楽しむ」、それはとてもあたたかい時間です。しかし、高齢者になると食事の準備が億劫になったり、一人暮らしだと孤食になりがちになったりと「美味しく食べる」ということを感じる人が少なくなっている人いるのではないのでしょうか。

『地域食堂』は、誰かと食事する喜びや楽しみを感じてもらえる場所です。

今月号では、今年7月にスタートした「しみずっこ地域食堂」と、今年3周年を迎えた「マミーのまんまふれあい食堂」の活動について、ご紹介します。

▼【マミーのまんまふれあい食堂】



## ご家庭で使いきれない食品はありませんか？

清水町社会福祉協議会では、ご家庭で使いきれなく余っている食品をご提供いただき、しみずっこ地域食堂や、福祉事業などで活用しています。

### ■随時提供いただくことができる食品

- ・穀類 (米、乾麺、小麦粉)
- ・保存食品 (缶詰、瓶詰、レトルト食品等)
- ・乾物 (海苔、豆、乾燥野菜等)
- ・調味料各種 (食用油、カレールー等)
- ・飲料 (ジュース、コーヒー、お茶等)



※未開封で賞味期限内、常温保存が可能であること。

■届けていただく場所 清水町老人福祉センター

【お問い合わせ先】 清水町社会福祉協議会 (Tel 69-2200)

目指す  
かたちは

# 世代を越えて「集う・食べる・語らう」

現在は新型コロナウイルス感染症の影響でお弁当の持ち帰り方式を取っていますが、目指す姿は食事を通じて「ハンディキャップや年齢の枠を越えて、自然と集える居場所にしたい」という思い。それをかたちにしていくため、しみずっこ地域食堂はこれからも活動を続けます。



ボランティアと利用者のふれあひも地域食堂の取り組みのひとつ

「週末にランチを  
囲みながら  
誰もが気軽に話せる  
そんな場所に」  
約2年の準備期間を経て、今年7月から「しみずっこ地域食堂」を開催できたことはとてもうれしく思っています。  
これもボランティアの皆さんや、地域食堂の取り組みに賛同し食材を提供いただいた企業などの支援があったからこそ、大変感謝しています。  
また、7月と10月の開催後に、利用者の皆さんから「美味しかったよ!」と声をかけていただいた活動に自信が持てるようにもなりました。



社会福祉協議会  
小笠原 敏子 さん

小笠原さんは役場を退職後、子育て支援課職員だった経験を活かし、社会福祉協議会に「子ども食堂」の開設を相談。その後、同会の臨時職員となり、しみずっこ地域食堂の中心的な役割を担っています。

現在は新型コロナウイルス感染症のこともあり、お弁当の持ち帰りでの開催となっていますが、コロナの収束後には、月に一度、週末にランチを囲みながら、子どもから高齢者、障がいのあるなしにかかわらず、誰でも気軽に来ることができて笑顔になれる、そんな居場所づくりにつなげていきたいと思っています。



ボランティアスタッフとともに調理を行う小笠原さん

善意に  
感謝!

# しみずっこ地域食堂を支援する輪



フクハラ清水店より米などの食材が提供

食材を  
提供

しみずっこ地域食堂ではフードドライブで寄せられた食品の活用のほかに、活動に賛同し食材提供の支援をいただいている企業等があります。

今回はJA十勝清水町と(株)福原(アークグループ)にお話を伺いました。



【株式会社 福原】

「サステナビリティの  
取り組みとして  
地域に貢献を」

清水町の皆様には、フクハラ清水店を日頃からご利用いただき、ありがとうございます。

福原では、サステナブルな社会の実現に向け取り組みを強化しており、その一環として、十勝管内の子ども食堂に食材提供を行っています。  
このたび、清水町社会福祉協議会から相談を受け、フクハラ清水店を通じて食材提供の支援をさせていただきます。  
コロナ禍で大変な時だからこそ、地域に貢献する企業であり続けたいと思っています。



【JA 十勝清水町】

「地域の福祉活動を  
支援していきたい」

JA十勝清水町では、以前から学校給食へ旬の

野菜を無償提供するなど、子どもたちへの食育の取り組みを行っています。  
清水町社会福祉協議会から相談を受けて、JAとしても協力したいと思い、7月のしみずっこ地域食堂の開催時にプロックリーを無償提供させていただきます。  
今後も地域の福祉活動に対して、食材の提供など、JAとしてできる限りの支援をしていきたいと思っています。

ボラン  
ティア

しみずっこ地域食堂の原動力はボランティアの皆さん。調理や会場準備、受付など、手際よく笑顔で行っている姿に元気をいただいています。



小岩喜美子 さん、藤川 淑子 さん

「これからも  
地域の皆さんの  
お役に立てれば」

お弁当の調理などのボランティアに携わっている藤川さんと小岩さん。  
参加したきっかけを藤川さんに尋ねると「食生活改善推進員として活動している傍ら、子ども食堂の活動に興味があり、清水町でも

地域食堂を立ち上げると聞いてお手伝いしてみたいと思いました。」と答えられました。  
小岩さんは活動について「ボランティアの皆さんと色々な話をして交流することが楽しい。これからも地域の役に立つことができれば。」と自分のできる範囲でボランティアに参加していきたいと話されていました。  
お二人ともお弁当を受け取りに来られる皆さんの笑顔を見るとボランティアに参加して良かったと思うそうです。最後に「しみずっこ地域食堂の取り組みを皆さんに知ってほしいし、また利用してほしいですね。」と話されていました。

利用者  
インタビュー!



子どもたちも  
喜んでます!

杉山 彩佳 さん  
あやか かなる 果也 さん (清小2年)  
ゆり 幸良 ちゃん (5歳)  
ふり 美羽莉ちゃん (4歳)

「子育て家庭には  
ありがたい事業です」

しみずっこ地域食堂のことはチラシで知り、「楽しそう。利用してみたい!」とすぐに思いました。  
2回利用していますが、お弁当以外にも、手作りのクッキーや飴、ジュースが入っていることも。子どもたちも喜んでいました。  
子育て家庭にとって、とてもありがたい事業です。これからも続けてほしいと思います。

次回の開催は12月です!

とき ■ 12月11日 (土)

【お弁当の受け取り時間】  
午前11時~正午

場所 ■ 清水町老人福祉センター  
(清水町南2条7丁目)

料金 ■ 大人1人200円  
■ 高校生以下無料

しみずっこ地域食堂の  
利用の申込み及び問い合わせは  
【清水町社会福祉協議会】  
(町老人福祉センター内 Tel. 69-2200)

# ふれあい食堂

## 「ほっとするお母さんの味が自慢」 開店して3周年 温かい食事と出合いを皆さんに

食堂開設のきっかけは  
お年寄りが集う場所を  
つくりたいとの想い

ふれあい食堂を開いた目的について、マミーのまんまの会代表の下田賢治さんは「当時、自宅にこもりがちなお年寄りが多い、交流しながら一緒に食事をする場所が町内にあれば」との想いがきっかけだったそうです。その後、他町で同様の活動をしている団体の視察をはじめ、町の福祉担当者への相談、協力してくれるボランティア



ティアを募集するなどの準備を経て、平成30年8月にスタート。

開催当初はお年寄りなどを中心に利用されていましたが、今では職場の仲間同士や家族での利用などもあがるなど、今までの取り組みが着実に町内で浸透してきていることがうかがえます。

また食堂の開催日にあわせて、町保健福祉課の協力で「介護・認知症相談コーナー」が会場に設けられており、「介護や認知症について不安に思っている」「日常生活で悩みはあるけれど役場まで相談に行くのに一歩踏み出せない」、そんな人のために気軽に相談できる場所として開設されています。

### コロナ禍で一時休止も テイクアウト方式を 取り入れながら再開

食堂がスタートして以来、毎月一度開催されてきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で一時休止したことも。その後、開催方法を会場で食べる方式からテイクアウト方式を主とし再開しました。

そのことに対して、下田さんは「食堂の目的が、食事を通しての交流だっ



会場では町保健福祉課職員による「介護・認知症相談コーナー」が設けられ、在宅福祉サービスの相談等に応じています。

たので、最初は持ち帰りによることに抵抗がありました。けれど、開催してほしいという皆さんの声に後押しされ、周囲と相談しながら、まずは継続することが大事と気持ちを切り替えました。」とコロナ禍のなかでジレンマに悩みながらも、食堂を続けてきた経緯を語られました。

### 活動を支援してくれる 皆さんへ感謝

ふれあい食堂の食数は平均70食で多い時は100食程度。活動が町内で浸透してきたことにより、応援してくれる商店などもあることで、「ふれあい食堂で使うなら」と食材を通常より安価で提供してくれる商店もあり、とても感謝しています。運営の収支はぎりぎりですが、皆さんに気軽に利用してもらいたいから、メニューの価格はできる限り値上げしたくないと思っています。」と下田さん。

昨年からは、町の町民提案型まちづくり事業補助金にも申請するなど、食堂の継続に力を尽くされています。

### お母さんたち 手づくりの味が自慢 今後もお会いと あたたかい時間を皆さんに

下田さんは「これまで続けられてこられたのは、ひとえにボランティアの皆さんのおかげ。『マミーのまんま』はお母さんのお飯という意味。家庭の味が自慢です。」とボランティアの皆さんの惜しみない協力を支えられてきたと話していました。

最後に、今後のふれあい食堂の在りかたについて尋ねると、「一人で食事をとることが増えている現代で、地域の人たちが集い、同じテーブルでご飯を食べることはとても大切なこと。出会いとあたたかい時間を皆さんに提供することはあります。あとはできるだけ食堂終了後の夕方などに、子どもたちにも食べてもらえる環境づくりができればいいと思います。」と話されています。



↑頼りとなるボランティアスタッフの皆さん



↑楽し気に交流する利用者の皆さん

### 募集しています!

「ふれあい食堂」ではホールや受付をお手伝いしていただけるボランティアの方を募集しているそうです。

お手伝いいただける人や活動に興味のある人は、下田さん (Tel 67-9430) までご連絡を。



皆さんぜひお越しください!

11月・12月の開催日はこちら!

- とき ■ 11月24日(水)  
■ 12月21日(火)  
【時間】 いずれも午前11時30分~午後1時
- 会場 ■ 清水町ハーモニープラザ  
(清水町本通り1丁目 JR十勝清水駅横)

行きたいけど  
会場まで歩いて  
いくには遠いし...



車の免許を持っていない方などは

### 会場までの送迎が利用できます!

事前に町の「買い物・銀行バス」に申し込みいただくことで会場までの送迎がご利用いただけます。詳しくは社会福祉協議会 (Tel 69-2200) まで。

### できたて温かい食事を提供しています



- カレーライス 350円
  - 五目チャーハン 350円
  - コーヒー 100円
- (令和3年10月現在)



お財布に  
うれしい  
価格!

# みんなに優しいまちに

毎年12月3日から9日の期間を「障害者週間」と定め、障害者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的としています。

今回、帯広市にある「就労継続支援施設 AMUA i (アムアイ)」に清水町から通勤されている篠原さんと、施設長の清野さんにお話を伺いました。

以前は一般企業で勤務したこともありましたが、自分の持つ障がいやそれに伴う体調不良などから続けることが難しく、自分に対する自信を失っていました。当時から支えてくれていた親は、「焦らずに自分のペースで探せば良い。」と優しく声をかけてくれました。とても心配をかけて申し訳ない。普段は、施設で働く皆さんの勤怠管理を始めとする総務事務を行っています。働く皆さんの生活に直結する仕事なので、責任重大だと感じるのと同時に、皆さんがいそいそと働ける環境を整える仕事にやりがいを感じています。



ピアスタッフ 篠原 正樹さん

清水町在住。現在勤続5年目。総務ピアスタッフとして勤務する傍ら、羊毛作家として自身のオリジナルキャラクターを手がけている。ピアスタッフ・精神保健福祉の施設などで働く、障がいをお持ちの方

自分が変わることができたのは、ここにいる皆さんと出会ったからです。そして、それができたのは、行動に移すことができたからだと思います。もし、行動に移せずにいる人がいたら、ぜひ、一歩を踏み出してみてください。すぐに変化が訪れることはないかもしれませんが、それを継続していれば、病いや障がいを持っていても、働く場所や認められる人たちと巡り合うことができると思います。この取材に協力することで、悩みを抱えている人たちが一歩を踏み出す力になればと思います。

篠原さんの仕事に対する熱意は日々感じています。仕事を進める中で、自分で決めたゴールに向かってやりきる姿勢が揺らぐことなく、自己マネジメントをしっかりとしながら自分を責めていくことは障がいの有無に関わらず、できる人は少ないのではないのでしょうか。この施設では、自分を大切に時間を多く取り入れ、その人自身の個性を表現できる場所になることを心がけています。お互いが相手を尊重しながら自分の個性を表現し、それが重なり合って、予想もしないような結果にたどり着いたときが、すごく楽しいです。



施設長・サービス管理責任者 清野 真知さん

今年の4月に通所支援施設「花」を独立し、株式会社「Laugh (ラフ)」を運営。AMUA iでは18名の通所者が「ファッション科」「アートデザイン科」「環境、DIY科」「フードデザイン科」に所属し活動している。

これからも、自分で考え、自分の意思で決めて行動する。その実体験から得た経験や知識を大事にしなが、自分に正直に生きてほしいと思います。AMUA iでは、お悩み相談窓口としての活動もしています。お話し内容はなんでも構いません。気軽な気持ちで連絡してみてください。お待ちしております。



就労継続支援施設 AMUA i (アムアイ)  
帯広市東2条南6丁目1  
Tel/Fax: 0155-25-8181  
E-mail: kaeru@hana-sakura.co.jp



この度、教育長としての任期を満了し、退任することとなりました。一期三年の間ではありましたが、周りには、清水町の子どもたちの学びに心を寄せていただいている学校関係者をはじめ、ポフンティアの方々、文化芸術、スポーツを愛好し、各種事業にお力添えをいただいている団体等の皆様など、多くの町民のご支援がありました。皆様の深いご理解のもと職務にまい進できましたことを、この上のない幸せと感じ、ここに厚くお礼申し上げます。



前教育長 三澤 史佐子

就任当初から「教育からのまちづくり」を念頭に「子どもは大人から生きる力を感得し、大人は子どもから活力や生きがいを得る」循環型の教育を目指して参りました。清水町ならではの子どもたちの教育活動として学校に取り組んでいた「十勝清水学」では、「第九の合唱」を通じて町の文化に触れ、郷土史跡の見学等によって町の成り立ちを知ります。タブレット端末を持った街歩きでは、様々な業種の方々に取材をさせていただき町の産業を学びます。教育にゴールはありませんが、家庭・学校・地域が手を携えて育てた子どもたちが清水町に誇りを持ち、生涯わたって故郷とつながる大人に成長してくださることを願っております。



この度、教育長に就任し、その職務の重責を考えると身が引き締まる思いです。私は学校教育と社会教育での経験を活かし、教育への情熱と覚悟をもって教育長の職務に務めて参ります。

さて、本町の教育は、歴代の教育長のリーダーシップのもと、「文化の町、教育の町」づくりを進めてきています。清水町教育大綱の基本目標である「学びから生きる力を育むまち」の実現のため、教育理念「心響」、実践指標「しみず「教育の四季」を基調に家庭・学校・地域・行政が一体となって進めている「清水の教



教育長 山下 勇

育」をしっかりと受け継ぎ、一層充実・向上させるよう努めていきます。また、AI技術の発達など、新たな時代に対応した教育（コミュニティ・スクールの充実、GIGAスクール構想の推進、小中一貫教育の実現等）を推進し、更に発展するよう学校教育と社会教育が連携・協力し、機動力とスピード感をもって、組織的・協働的に進めていきます。清水町の子どもと大人が互いに学び合い、認め合い、高め合う「異世代交流」を通して、子どもや保護者が、地域住民が、職員が笑顔で学び、生き生きと活動し、生きがいをもって生活する姿を目指し、「笑顔をはぐくむ教育」を推進して参りますので、町民の皆様や関係団体等の方々には、ご理解とご協力、ご支援をいただきますようお願いいたします。



秋～心を染める 色の中で 感性みずみずしく  
コロナ禍での  
運動会・体育祭や文化祭・学習発表会

各小・中学校では延期していた運動会や体育祭を内容や実施方法等を創意工夫して開催しています。

御影小学校では、学年1、低・中・高学年でのリレーと表現などの規模を縮小、清水小学校では、低・中・高学年に分かれ、個人・団体各1、表現に種目を絞って実施されました。

御影中学校では、「御中フェスティバル」として午前の部は意見発表や音楽などの文化的内容、午後の部は大縄跳びなどの体育的内容で実施されました。コロナ禍で制限のある状況下、一つ一つの種目に真剣に取り組む子どもたちの姿が逞しく、かつ頼もしく感じました。(清水中学校では10月に学校祭(合唱祭・ミニ体育祭等)を実施)



清水小学校5・6年生  
表現「はさごい、ソーラン」



御影中学校 1年生  
音楽「ポディー・パーカッション」

## 社会教育関係団体紹介

### ●御影カラオケ同好会●



本会は昭和55年創立以来42年継続している同好会です。昨年、今年とコロナ禍で公民館が使えない時もありましたが、週に1回、午後7時からアルコールなしで練習しています。

特色は、年に2回の訪問活動(あさひ荘・松沢の郷)や秋祭り、御影文化祭への出演・舞台の音響・司会などの運営、地域の支え役をしています。

毎年2月の発表会は40回を数え、真剣な練習で、歌や踊りの実力を維持しています。

- 活動日時 毎週水曜日 19:00～21:00
- 活動場所 御影公民館 大集会室
- 持ち物 マイクカバー、カラオケ楽譜
- お問い合わせ先 永井利幸 (Tel. 63-2367)  
職場 (御影電気) (Tel. 63-2021)

## 図書館だより

毎月19日はしみず読書の日

### 考えてみよう環境のこと

10月11日の秋の「道民環境の日」にちなみ、SDGsをテーマにした図書展示を10月に行いました。SDGsは世界中の「貧困」「環境破壊」「男女の平等」などの問題を、2030年までに解決するために立てられた17の目標です。

図書館では、目標のパネルに関連する図書と共に展示し、また、子どもにも興味を持ってもらえるようSDGs関連の絵本も新たに購入し展示しました。環境問題などをわかりやすく説明した絵本は、子どもにも大人にも好評で、本を手にする姿が見られました。



本を手にするご家族

### 新着図書からピックアップ



『旅する54字の物語  
超短編小説で読む47都道府県』  
氏田雄介編著

物語や旅の持つ、日常を離れ心をリフレッシュする効果を一度に両方味わえる本です。日本各地の名物などを盛り込み54字に仕立てた82編の超短編小説は、旅気分を楽しみつつ、クスッと笑えたりゾクッとさせられたり、またホロリと涙しそうになるなど様々な読後感に浸れます。「短い時間で読書を楽しみたい」「旅の気分を味わいたい」そんな時にぴったりの一冊です。

- 『白光』 朝井まかて著
- 『兵諫』 浅田二郎著
- 『我が産声を聞きに』 白石一文著
- 『万事快調』 波木銅著
- 『罪の因果性』 横関大著
- 『朝までぐっすり!夜中のトイレに起きない方法』 平澤精一著
- 『15分でできるゆる定食レシピ』 ずぼらめしじゅーピー著

## 令和3年度

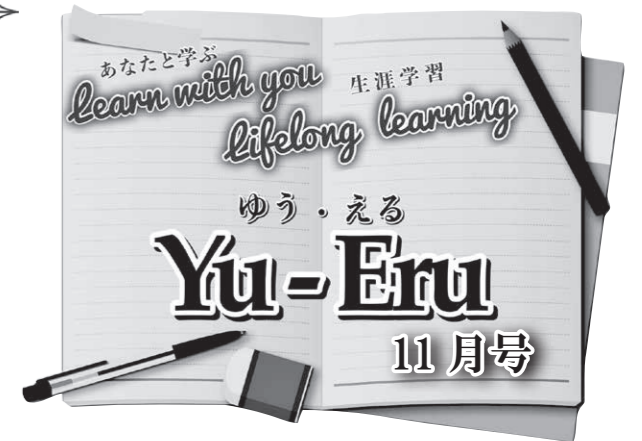
### 清水町文化賞・スポーツ賞受賞者紹介

11月3日の文化の日、令和3年度清水町文化賞・スポーツ賞表彰式が清水町文化センターの大集会室で開催されました。

この表彰は、本町の文化・スポーツの振興のために、永年(長年)にわたり貢献された方(または団体)や、文化・スポーツ大会において優秀な成績を収められた方(または団体)を表彰するものです。

表彰式では山下勇教育長からスポーツ賞を受賞した有澤秀幸さんに楯が授与された後、受賞者の有澤さんから謝辞をいただきました。

受賞された有澤さんに心よりお祝い申し上げます、ご紹介します。



## ～清水町スポーツ賞～

### 有澤 秀幸 さん

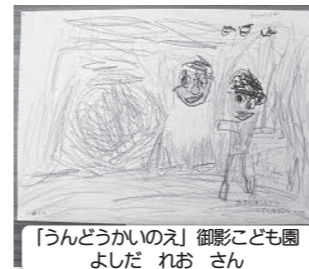
昭和54年度から平成30年度までの永きにわたり清水町体育協会の役員を務め、協会運営と本町のスポーツ振興に大きく貢献されました。



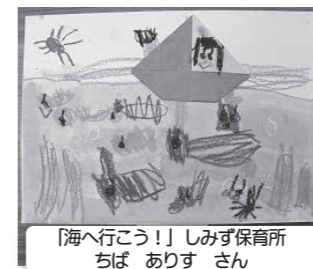
## 第35回 町民絵画展 開催!

10月1日から5日の期間、文化センターのホワイエにおいて、第35回町民絵画展が開催されました。

会場には、幼児から大人までの絵画作品289点が展示され、訪れた多くの町民が、芸術の秋の絵画鑑賞を楽しみました。幼児の作品のなかから、優秀な作品には「文化館館長賞」が贈られます。この度の絵画展では次の6作品が受賞され、文化センターに展示されています。



「うんどうかいのえ」御影こども園 よしだ れお さん



「海へ行こう!」しみず保育所 ちば ありす さん



「おかあさんのかお」御影こども園 ながた てっしん さん



「せみ」しみず保育所 いとう はる さん



「はなび」清水幼稚園 ごうはら はな さん



「あさがお」清水幼稚園 いしざわ こうき さん



10/27 十勝若牛ハンバーグを給食で！  
十勝若牛生産組合が無償提供



10月27日、十勝若牛生産組合（吉田哲郎組合長）から十勝若牛ハンバーグが給食センターに無償提供されました。翌日28日には、給食のメニューとして登場。子どもたちは特製トングラスソースがかかったハンバーグを食べながら「美味しい！」と目を輝かせていました。給食センターでは10月25日から29日まで「十勝清水の恵み給食週間」を実施、清水産食材を使用した給食メニューを提供しました。

10/17 清水のことを知る機会に「しるしるしみず教室」を開催



本町に移住して3年以内の町民を対象に、中央公民館講座「しるしるしみず教室」（第2回目）が開催されました。今回は「農業を知る」をテーマに実施され、JA十勝清水町職員の講話をはじめ、町内の石川邦宏さんの農場及び株よしの牧場を見学。参加者は「こんなに近くで畑や牛を見ることがないので勉強になった。」「牛が大きくて驚いた。」と感想を述べていました。

10/8 目の見えない世界を体験  
盲導犬の重要性を学ぶ



10月8日、御影小学校6年生が、目隠しをして白杖で歩行するなどの体験学習を実施しました。盲導犬の「ムネル」と訪れた北海道盲導犬協会の角田修一指導員を講師として招き、盲導犬の仕事について学習した後、視覚障がい者が使用する白杖を使い歩行体験を行いました。体験した児童は、「目が見ないと歩くのも難しい。バランスをとるのが大変だった。」と話していました。

10/6 図書館で「人権の花絵画展」  
～11月21日まで開催中！～



10月6日から図書館で「人権の花絵画展」が開催されています。（11月21日まで）6月に町人権擁護委員が、幼稚園・保育所・こども園にマリーゴールドとプランターを寄贈。各施設の児童がその花を題材に描いた絵が図書館に飾られ、来館者の目を惹いています。同委員の猪早紀子さんは「花もかわいらしく描かれていて微笑ましい絵ばかり。ぜひ皆さんにも見てほしい」と話していました。

Pick Up! 熱気球に乗って町の景色を楽しむ  
10/24 清子連が体験学習事業を開催



町子ども会連絡協議会の体験学習「気球に乗ろう」が清水小学校グラウンドで開催。上士幌高校熱気球部の協力で、熱気球の搭乗を体験しました。

10/30 お店をまわってかぼちゃを探せ！  
商工会がハロウィンイベントを開催



10月30日、商工会青年部が「町内のお店をまわってかぼちゃを探そう」を開催、213人が参加しました。同イベントは子どもたちに楽しんでもらうと企画。商店街に貼ってあるポスターの中からかぼちゃを探し、その数を用紙に書いてハート型プラザに設置した応募箱に投函、後日抽選で景品をもらえると。応募した子どもたちには、その場でお菓子の詰め合わせがプレゼントされました。

10/10 楽しい秋のイベントに笑顔  
御影地域で子供縁日を開催



10月10日、御影地域で、ちっちゃな祭り実行委員会（長谷川弘代表）による子供縁日が開催され、約200人の子どもや家族連れが訪れました。会場では地域企業が、わたあめや焼きそば、焼き鳥などの軽食のほか、ヨーヨー釣り、スマートボール、輪投げなどのお店を出店。同級生と訪れたという小学生は「ヨーヨー釣りが楽しかった。たくさん遊んでいきたい。」と笑顔で話していました。

10/9 渋沢栄一の玄孫、渋澤健氏が講演  
とかち熱中 schools 清水サテライト校を開催



10月9日、とかち熱中 schools 清水サテライト校が開催され、加藤敏明氏（加藤水産三代目と食懐石「蟹船加藤」店主）及び、渋澤健氏（コムンス投信株取締役会長兼ESG最高責任者）を講師に授業が行われました。渋澤氏は「自分は渋沢栄一の玄孫にあたる。子孫に遺した一番の財産は言葉。現代社会にも通ずる未来志向の言葉ばかり。」と話し、渋沢栄一の哲学などについて講演されました。

# 清水歴史探訪 [14]

## 『渋沢栄一を知る』

### ⑦「合本主義」と渋沢の生き方

渋沢栄一が一生を費したものは「皆が良くなるため、平等に富むため、社会のために」という思いであり、そのために「合本主義」が必要とされています。

パリから帰国した栄一は、日本初の「商法会所」を設立。これは合本主義にもつくもので、多くの人からお金を集めて資金をつくり、同時に人も集めて事業を行っていくのです。「本」とはお金と人であり、両方を合わせて事業を行うという考えです。

大衆からお金を集めて事業を行うためには、その会社や組織を私物化しない人物によって行われることが必要で、「会社の用はわがものと思え会社の金は人のものと思え」と栄一は経営者の心得を説いています。単にお金を得られればいいというものではなく、投資家に対して「事業目的への理解と共感」を求めました。つまり目的の理念に賛同する人々からお金を集めるという先駆的な考

え方を持っていたのです。

栄一の公平で差別のない博愛的な姿勢は、ハンセン病(らい病)を患った女性を風呂に入れ背中を流したという母えいの影響や、パリ万博で渡欧したときに学んだ赤十字活動や福祉の精神によるところが大きいと思われる。合本主義の目的は、「皆が力を合わせ、皆で幸せになろう」ということであり、一人の幸福のために他の誰かが不幸になることはあってはならない。栄一は『余の主義は利己主義ではなく公益主義』というところができごと『渋沢百訓』と言っています。

11月28日には町郷土文化講座「十勝開墾会社設立者渋沢栄一の生き方」が文化センターで開催されます。

第一部の「十勝開墾会社と渋沢栄一」では草野和好氏(十勝清水郷土史研究会共同代表)が、第二部では井上潤氏(渋沢栄一記念財団渋沢資料館長)により「渋沢栄一の生き方」について講演が行われます。ぜひこの機会に渋沢



→町郷土文化講座のチラシ  
・文責 北村光明  
(十勝清水郷土史研究会)

# インフォメーション

## 誕生

白川 稔 ちゃん (拓磨/成美)  
三雲 幸人 ちゃん (大/直子)  
小室 日奈詩 ちゃん (洋平/鈴奈)

## 結婚

杉山 隆治 さん × 松田 志乃 さん

## 哀悼

二ツ山 サヨ子 さん 熊牛  
青木 キヨ子 さん 人舞3  
中村 勝則 さん 昭和  
村下 久子 さん 竹葉  
草野 光由 さん 常盤  
青柳 トシ さん 御影鉄南  
山崎 美代子 さん 日の出2  
山本 昭子 さん 桜ヶ丘団地  
喜多見 郁夫 さん 清和団地

# こんにちは 広報モニターです

★表紙の遠足、仲良くお弁当を持つてのショット。微笑ましく思いました。

★決算報告、それぞれの説明にイラストや写真があってわかりやすかった。読むうちに他にもどんな事業があるのか、興味を持った。

★商品券事業で客層が増えたいくも米穀店の声を聞き、お店に行ってみようと思った。  
★財政状況についてわかりやすかったが、借金の多さに驚いた。人口減少の中、子どもにかかる経費は安いものと考ええる。出産祝金の増額を考え

てみてはどうか。

★財政状況がコンパクトにまとめられてた。ただし2ページ目で町民1人あたりの貯金・借金が示されていたのか、比較するものがないのでよくわからなかった。

★2ページの費目の説明部分が少し見づらかった。  
★まちづくり懇談会報告や町民声ポスの回答はわかりやすかった。

★運動会スナップ、躍動感があふれて子どもたちの頑張りが伝わってきた。吹き出しでのコメントも良かった。  
★子どもたちの表情がすばらしく明るい気持ちになった。  
★フオーカスの宮地さん、町としても助成制度等で支援したら良いと思った。

★就農後、乳製品の製造販売までの道のりがわかり応援したいと思った。

★町が、子育て・移住促進・結婚少子化の対策に苦慮している様子はわかるが、広報紙でその検証記事を絶えず進めていくことも大切なのではないかと思います。

# HELLO BABY



「HELLO BABY」は、6か月から2歳くらいの赤ちゃんを掲載しています。希望される方は広報広聴係までお気軽にどうぞ。写真はメールでも受け付けています！  
mail: koho1@town.shimizu.hokkaido.jp



鈴木 麻比瑠 ちゃん

いつもニコニコ我が家のムードメーカー♡



深谷 佳笑 ちゃん

たくさん食べてたくさん寝て大きくな～れ～！

## ちょうみん作品館

短歌の寄稿がありましたので、紹介します。

### 短歌

コロナ禍を吹き飛ばさんと晩秋の清水の花火 天を劈く  
坂下洋子

【玲瓏短歌会】

散歩道おち葉さくさく秋風の類にあたりて息はずませる  
村谷三恵

ピンポンの玉ほどの袖育ちおり弓なりの枝耐えてくれるか  
大石 尚

ひと時の華やぐ庭も花々は季節の色に移ろい淋し  
森山ヤヨイ

九十年喜怒哀楽の生涯を秋の彼岸に兄は逝きたり  
藤原静子

花火上ぐ広き夜空を輝やかに星さえ消して我がもの顔に  
宗像三郎

久に聞く民謡楽器に酔いしれて沈みし心うかれ手拍子  
田村徳子

この季節は吾の好みし時期なれど秋の日和りにきみは逝きたり  
橋本佳代子

# 11月1日 地蔵橋が開通しました!

通行止めでした地蔵橋(下佐幌西1線道路)が11月1日に開通しましたので、お知らせいたします。





# じょうほう瓦版

御影地域づくり推進協議会役員として永年尽力された功績により、小飼博明さんが町社会功労賞を受賞



10/4

多年にわたりパセリの会会長として活動され正しい食生活の推進に貢献された櫻井美紀子さんに感謝状を贈呈



10/4

- 秋の夜空を彩る花火に魅了 - とかしみず町花火大会 (商工会青年部主催) が開催



10/2

文化センター駐車場及び農業研修会館大研修室の環境整備の地域貢献活動を実施した宮坂建設工業(株)に感謝状を贈呈



10/11

清水小学校屋外水飲み場修繕の地域貢献活動を実施したイチエイ山田建設(株)に感謝状を贈呈



10/11

図書館エントランスホール展で洞内由紀子さん「2011-2016 乳牛の絵本原画展」を開催



10/6

- 福祉・教育事業の推進のために - 町に100万円を寄附された浅岡万里子さんに感謝状を贈呈



10/21

- 和紙ならではのやさしい作品の仕上がり - しゅんこう和紙ちぎり絵講座を開催



10/21

明渠排水路の障害木除去作業の地域貢献活動を実施した伊豆倉・三井経常建設共同企業体に感謝状を贈呈



10/20

シルバー人材センター普及啓発促進月間事業として、会員が中央公園等で落ち葉ひろいのボランティアを実施



10/27

町野菜振興会ブロッコリー部会・白菜キャバツ部会が給食センターにブロッコリー48kgと白菜80kgを無償提供



10/26

いけばなの根源「池坊」～第九の町へ花の輪～(華道家元池坊帯広支部橘香会主催)が文化センターで開催



10/23

## TOWN EVENT 11/16~12/15

# CALENDAR

人口 9,206人(+9)  
男 4,545人(+3) 女 4,661人(+6)  
世帯数 4,698(+2)  
令和3年10月末現在( )は前月比

11/16	火		12/1	水	
17	水		2	木	■図書館エントランスホール展 介護事業所さくらから「我が町ふるさと清水町と季節を楽しむ作品展」~29日まで(図書10時)
18	木	■運転免許更新時講習 (文セ優良13時30分、一般14時30分、違反16時)	3	金	■清水町子ども大会作品展展示会~8日まで(文セ17時)
19	金		4	土	■出張おはなし会 (老人福祉センター 13時30分)
20	土	■出張おはなし会 (老人福祉センター 13時30分)	5	日	
21	日		6	月	■町民と町長のふれあいトーク(役場9時)
22	月		7	火	
23	火		8	水	
24	水		9	木	
25	木		10	金	
26	金		11	土	
27	土	■おはなし会(図書11時30分) ■イクボスセミナー「ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて」(文セ開演14時00分)	12	日	
28	日	■郷土文化講座「十勝開墾会社設立者沢沢栄一の生き方」(文セ開演10時)	13	月	
29	月		14	火	
30	火		15	水	■帯広百年記念館運営連絡協議会移動展 過ぎ去りし街角「荘田喜與志の見た帯広・十勝巡回展」~23日まで(文セ9時)

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、行事が中止・延期になる可能性がありますので、ご了承願います。

役場=清水町役場 文セ=文化センター 御支=御影支所 保セ=保健福祉センター 図書=図書館  
ハモ=ハーモニープラザ 町体=清水町体育館 アリ=アイスアリーナ 改善=改善センター  
消防=清水消防署 し保=しみず保育所 御こ=御影こども園 幼稚=幼稚園  
清小=清水小学校 御小=御影小学校 清中=清水中学校 御中=御影中学校

### 町長の日記

11月2日の最高気温は7度で小雨が降る寒い1日に。そんななか、私はちよと暖かい「ウオームヒズ」で執務しています。先日、清水町は「カーボンゼロ宣言」をしましたが、役場でも早速10月12日から、環境省や北海道にのら、通年軽装による省エネ型ワークスタイルの推進をしています。私も5月中旬から9月までは省エネと健康増進も兼ねて自転車通勤に励んだところです。これから冬に向かって、より暖かい服装で仕事ができるれば暖房費の節減にもつながるはず。職員一人ひとりが省エネを意識することで清水町全体に広まっていきたいと思います。



### あともがき

10月5日に清水高校3年生が、町議会の議場で「模擬議会」に挑戦。「若者が集まるまちづくり」「特産品のPR」「アイスホッケーを通じたまちづくり」「公園の整備」をテーマに質問がされました。取材を兼ねて傍聴していましたが、なかなか鋭い質問をされていて、事前に内容をよく研究している様子がかげえました。来月号では、その模擬議会の内容を含め、清水高校の特集を予定していますので、ぜひお読みください！ (下保・中澤)





この人を

アオカス

あなたの不要な物が、誰かのお気に入り！  
物を捨てずに循環させ  
環境と人に優しい未来へ

**平** 成30年5月から町内建設業者「秋島建設」と、帯

広市の障がい福祉サービス事業所「ちあふアクトリー」の共同企画で実施され、10月の開催で7回目を迎えた「クラシノリサイクルイチ」。今回は、木材の端材を再利用し、木工雑貨を製作している秋島建設の秋島由貴さんと鈴木里紗さんにお話を伺いました。

**ラ** イフォーガナイザー(※)の資格をもつ秋島さんにお話を伺うと、「建築の仕事をしている時のお客様との会話で、自分の家にあるものを整理していると不要品が多く出てくるといふ声を頻りに聞いたり、建築現場から大量に排出される端材を再利用できないかと考えていたこともあって、不要なものをそのまま捨てるのではなく、リ



秋島由貴さん  
鈴木里紗さん

代表取締役  
秋島雅彦さん

サイクルして必要としている人に届けることができれば、地域に住む人たちの生活の質や幸福度の向

上につながるのではないかと思っ  
て取り組みを始めました。」と、  
事業を始めるきっかけを話してく  
れました。

## 有限会社 秋島建設

**鈴** 木さんは、「現場から出  
てくる端材は魅力的なも  
のばかりで加工すれば可愛い雑  
貨が作れるとずっと思っていま  
した。しかし、私たち2人は木  
工に関して素人なので、作りた  
い物の画像とイメージで伝える  
ことしかできません。そんな私  
たちに、仕事の合間を縫って教  
えてくれている技術者の人たち  
にはとても感謝しています。」  
と、協力してくれる皆さん  
への感謝の気持ちを話して  
くれました。

**今** 後の課題について伺う  
と、「新型コロナウイルスウイ  
ルス感染症の影響で開催延  
期を決めたときなどの緊急  
時の情報発信が課題だと感  
じています。10月の開催も  
当初の予定から延期したので、  
フェイスブックやインスタグラ  
ム、ホームページで情報発信し  
ていましたが、当日にお客さん  
が来てしまい、ご迷惑をおかけ  
してしまいました。これからも  
情報をお客さんに届ける工夫を

考えていきたいと思っています。」  
とお二人とも情報発信を課題に  
感じている様子でした。

**最** 後に、「これからも地域  
密着型の建設業者として、  
地域の方々に様々な形で貢献し  
ていきたいと思っています。ま  
た、「クラシノリサイクルイチ」  
に来ていただいた皆さんに、少  
しでも木材や建設業、さらには  
物を循環させるといふことに興  
味を持っていただくことができ  
るよう、これからも定期的に開  
催していこうと思っていますの  
で、皆さんのお越しを心からお  
待ちしています。」とお二人と  
も笑顔で話してくれました。



出展者の皆さんとの集合写真

「クラシノリサ  
イクルイチ」  
の開催情報や  
木工雑貨の情報  
などを公式  
Instagram  
ムで発信してい  
ます！  
(QRコードを読み込むとご覧  
になれます。)



端材を再利用して  
作られた木工オブジェ